

◎ 植松主教 日本聖公会首座主教として東北教区訪問を予定

植松主教は、3月27日の日曜日に東北教区を訪問され、同日の主日礼拝は、仙台基督教会で東北教区の方々と守られる予定です。植松主教は、26日（土）、可児ミッション（岐阜県の可児におけるフィリピン人会衆のための働き）の開所式に出られた後、山形を經由して仙台に入り、27日中に東京に戻り、28日（月）の聖公会神学院の理事会に臨まれます。多忙な中で重責を果たされる植松主教のためにお祈り下さい。全世界の聖公会が今大震災に対して大きな関心を寄せていますが、日本聖公会の首座主教の植松主教より全世界の聖公会に向けてのメッセージが発せられました。各教会に英文・邦文共に配布されています。

◎ 教区の「震災支援室」 先遣隊を派遣

北海道教区は、震災支援の先遣隊として、大町司祭・飯野司祭・永谷神学生を派遣しました。大町司祭は、20日～22日、飯野司祭は21日～24日、永谷神学生は21日～引き続き現地に滞在中。大町司祭は、両教区が協働する支援活動の可能性について、加藤主教や東北教区のスタッフと協議。飯野司祭は、仙台基督教会牧師の林国秀司祭と同教会信徒の方々による、石巻など仙台近郊の被害の大きかった地域信徒の安否確認と支援物資の提供活動に同行。永谷神学生は、オフィスレイアウトの構築、情報の受発信環境の整備、活動記録の整備など、事務所機能の強化のために活動を継続しています。北海道教区では3月23日（水）の教区常置委員会にて大町司祭より報告を受け、今後の支援の在り方について協議しました。

◎ 北海道教区関係者の安否と現在の状況

【斉藤昭一司祭ご夫妻（仙台）】地震当日は、地域避難所ですごされたが、3月13日の20日の礼拝には、ご夫妻で出席。現在は、ほぼ通常の生活に戻っておられます。

【西條トシ子さん（仙台）】免震マンションであったため、建物の損壊はなく、近隣に娘さん夫妻がおられ、十分なケアの下に生活されています。

【島田信雄さん、暁子さん（仙台）】3月13日の主日礼拝に出席。3月22日に、ようやく水道が回復するなど、不自由な生活が続いていますが健康に過ごされています。

【坂本清登さん（石巻）】3月22日まで避難所で生活、石巻市街の住宅一階は津波被害を受けるも、二階は無事のため、津波で家を失った親族と5人で自宅二階に生活。ライフラインはすべてストップしています。

【小貫貞三郎さん、純子さん（七ヶ浜）】

七ヶ浜町という海沿いの町に自宅があり、3月23日に確認したところ家は無事。寸前のところで津波が止まった模様。七ヶ浜町は、被害が大きく生活ができる状態にはないため、潤子さんの実家のある札幌で避難生活中です。

【塩谷信喜さん（盛岡）】石巻近郊で医師として勤務中に地震に遭遇。現在は、岩手県高度救急救命センター（盛岡）をベースに、救命専門医として多忙を極めておられます。

【関沢美育さん（仙台）】地震発生時は、所要で東京訪問中。札幌の自宅に戻っておられます。

◎ 管区の震災対策本部が、救援物資の募集を開始

名古屋以東の教区・教会は、東京聖アンデレ教会が送付指定先となっていますが、北海道教

区では、仙台以北の教会を經由して直接東北教区にお送りする方法を検討しています。当面各教会に一旦集積して下さい。近々に送付先・送付方法を教区より通知します。

◎ **神戸教区、小名浜を拠点に支援活動を開始**

小名浜聖テモテ教会（越山健三牧師）・聖テモテ幼稚園は、津波被害を寸前で免れましたが、原発事故の影響により、「いわき市」外へと避難する人が多い一方、市内に留まる人々は、「風評被害」などにより支援物資が届かない困難の中にあります。同教会幼稚園は、支援物資の集積所として、市内10か所の高齢者施設約400名の方に対し働いています。東北教区は、郡山より越山哲也司祭を現地付きとして派遣、阪神淡路大震災を経験した神戸教区からは、2名の司祭を含む4名のスタッフを現地に派遣を決定しました。小名浜における支援の状況と協力の可能性は、教区「震災支援室」として今後も引き続きフォローして参ります。

◎ **緊急支援募金袋を送付**

教区では、「緊急支援募金」のための「献金袋」を印刷用意し、教区の全信徒に行き渡るよう用意いたしました。すでに、募金袋を配布しておられる教会は、第二次募金などに。また、募金箱で対処しておられる教会は、この袋を活用して多くの人に協力をお求め下さい。

震災支援 Q & A

Q 先遣隊が現地を訪ねて初めて気づかされた事がありますか？

A 私達は、大津波が街や集落を次々と破壊し飲み込んでいく様子を、ライブの映像で見ましたが、現地の人々は、地震直後の停電によりテレビ映像を見る事ができなくなり、加藤主教をはじめ東北教区の人々が映像で津波などの様子を目にする事ができたのは、地震発生3日後の事だったという事です。その間、私達はテレビに釘づけとなり、その後も多くの時間をテレビの前で過ごしています。しかし私（大町）も、仙台に来てみると滞在した2日間、テレビを点け、新聞を目にする余裕など一度もありませんでした。

林司祭をはじめとする仙台基督教会の方々は、電気・水道・ガス等のライフラインの復旧がままならない中でこの間、必死に信徒の安否確認を続けておられました。仙台基督教会ホールの一部に設けられた「対策本部」には、20家族に及ぶ安否確認状況が模造紙に記載されています。自動車によって信徒訪問しようにも、今なおガソリンの供給が十分になく、1回10リッター制限で、数時間車列に並ばなければならない状況です。また、仙台市内の多くでガスや水道が不通、大半の商店が閉店しています。このような中、無事の情報が得られた方でも、高齢で高台にお住まいの信徒の方々は、水も食料も得る事ができません。もちろんガスが不通のため煮炊きはできず、私達がお訪ねした時、加藤主教は既に10日間、シャワーを浴びる事ができない状況で働いておられました。このような状況下で、水・米・食品・カセットガスボンベなどの救援物資を手にした司祭と信徒のチームによる市内信徒の間安が献身的に続けられています。更に、郊外の津波被災地には、緊急車両指定を受けたオフロードカーにより、林司祭と信徒のグループで安否確認と訪問が続いています。このような中、少しずつ確実に対策室オフィスの態勢が整い、避難所におられる方々をはじめとする広範な援助へと展開する段階へと進んでいる事を実感いたしました。

私達は、地震発生当初より物資やボランティアの派遣に心が焦る部分がありましたが、今回の震災被害の大きさを考えると、息長く粘り強い援助を東北教区と共に行って行かなければと、改めて感じさせられました。（大町記）

Q 現段階で教区が取り組む事と、今後の展開について教えてください。

A ◎現在できる事は、①支援募金、②支援物資の呼びかけと各教会における集積と整理です。

◎今後予想される事は、①聖公会管区の対策本部が展開する支援活動や、東北教区が拠点を決めて行う支援活動からの要請に応じての支援物資を送付し、ボランティアを派遣する事。

②東北教区の要請に応じて、長期間にわたる常駐スタッフとして聖職や信徒を派遣する事。

③様々な教区行事や研修会を東北教区の支援を意識して企画する事。

※上記の、より具体的な可能性を模索するため、大町司祭（震災支援室長）を、来週「釜石」に派遣する予定です。釜石市は、震災により大きな被害を受けましたが、釜石神愛教会・神愛幼稚園（教会立の保育所）の建物は無事で、幼稚園も保育を開始します。このような中で、今後、被災市民の方々への支援の働きを同教会と連携して行う可能性について模索します。

Q ボランティアに行ける態勢が整っているのですが、いつまで待たなくてはなりませんか？

A 聖公会による震災支援の拠点が明確になり働きが展開されてくると、自からボランティアが必要となってきます。東北教区からの呼びかけや、日本聖公会管区による呼びかけ、聖公会関連団体からの呼びかけを、震災支援室ではフォローしお伝えして行きますが、それまでにボランティアが可能な窓口がありましたら進んで登録し、ご自身の専門性や、持っている時間を無駄にしないようにして下さい。その際には、「震災支援室」に是非ご一報ください。

Q 現地にボランティアとして行けませんが、私達が地元で出来る働きは、何かありますか？

A ・既に、各教会には継続的な代祷を依頼していますが、例えば「代祷」の中で、「わたしたちの主教ナタナエル（植松誠）」に加えて、「並びに東北教区主教ヨハネ（加藤博道）」と祈って下さる事も良いでしょう。

※現在管区では今回の地震に関しての特別の祈禱文を作成中と聞いています。

・支援物資の受け入れリストを、地域に向けて教会掲示板に掲示したり、友人に呼びかける事も出来るでしょう。

・教会によるチャリティーコンサートや、救援バザーの実施も計画できるでしょう。

【お便り】 支援室のお働きお疲れ様です。今回の災害で私ができることは？と考えたときに思いついたことは札幌に避難してきた方への援助です。それであれこれ調べてみました。

1. 市都市局住宅管理担当課に問い合わせ、23日現在札幌市で受け入れたのは36世帯市内各所の市営住宅でもみじ台団地が多いそうです。市では寝具、暖房器具、照明器具を揃えているそうです。生活必需品についてはまだとのこと。

2. 生活必需品を揃えるボランティアについては、市長政策企画課が担当しており、聞いたところ、まだ手を付けていないそうです。個人的にしてはと聞きましたが、善意はありがたいが、不公平も生じるのでと言われました。

3. 一人でできることではないので、教会の中でボランティアを募り「市民支援ネットワーク」と共同で活動できる場を作っていただけたらと思います。雨宮寿子（聖ニコラス教会）

【返 事】 支援室として「市民支援ネットワーク」の窓口とも連携していきます。

【震災支援室からの事務的なお願い】

◎ ニュース定期便は、各教会において掲示下さると共に、増刷して配布ください。

◎ 「北海道教区関係者の安否情報」など、ご存じの情報をお寄せください。

◎ 教会や個人での取り組みについても、お知らせください。他の教会の活動の参考になります。

【連絡・問合せ先】 電話：011-561-0451、ファクス：011-736-8377

Eメールアドレス：saigai@nskk-hokkaido.jp